

研修報告書

研修先 千葉幕張 市町村アカデミー
研修日 平成25年1月15日(木)～1月16日(金)
参加者 田中政司・小田寛之・辻浩一・大島恒典

報告者 田中政司

研修内容

1. 1月15日(火)

- 講演 「どうなる日本経済・地域経済」
NTTデータ経営研究所所長
千葉商科大学名誉教授
齋藤 精一郎 氏
- 講演 「これからの政治の行方」
読売新聞調査研究本部研究員兼編集委員
伊藤 俊行 氏

2. 1月16日(水)

- 講演 「地方議会の役割と改革の行方」
法政大学法学部教授・
自治体議会改革フォーラム呼びかけ人代表
廣瀬 克哉 氏
- パネルディスカッション

「どこまで進んだ！議会改革」

パネラー

北海道福島町議会	溝部 幸基 氏
千葉県流山市議会	松野 豊 氏
岐阜県高山市議会	中田 清介 氏
コーディネーター	
法政大学教授	廣瀬 克哉 氏

要旨及び感想

15 日の斎藤氏、伊藤氏の講演は「どうなる日本経済・地域経済」と「これからの政治の行方」であったが、安倍政権がこれからは経済再生に向けてどのように取り組んでいくのか期待が持てる反面、注意深く見守らねばならないという話であった。

16 日の議会改革についての廣瀬氏の講演とパネルディスカッションは、我市議会の今後の改革を進めるうえでも非常に興味深い話であった。

以下要点をまとめると

- ① 政策的合意形成を欠いた総選挙→大勝した自民党の得票数が 2009 年より 200 万票少ない。政策への国民的な求心力が見えてこない。
- ② 地方議会は何を切り開いてきたか
 - イ) 議会の「見える化」→単に扉を開くだけでなく市民の中に入っていく広報が大事である。
 - ロ) 合議機関という位置づけの提起→公開の場での議論を通して「論点・争点の発見・公開」し市民に対し「議会があるから課題が見えてくる」と言われるような「見える化」を目指さなければならない。
 - ハ) 議会という機関の実態・意義・あり方を示す→個々の議員、会派としての活動だけではなく「機関」としての議会という役割の認識を持つことが大切である。
- ③ 改革にまだ足りていないこと
 - イ) 市民の注目を集めるに至っていない
議会報告会への参加者はどこの議会でも伸び悩んでいる。
議会改革を一生懸命やっても票にはならない現実。
 - ロ) 政策作りの場としての議会の役割は不十分
どこの自治体においても議会立法はさほど増えていない。
- ④ 合議による政策的合意形成
 - イ) 議会として論点、争点を発見し提示すること。
 - ロ) 政策に対し衆知を集め、自治体としての持続可能性を追求すること。
 - ハ) その結果として政策的求心力と自治体への信頼が増すこととなる。

これからの議会活動においては、住民基点を中心に議会活動を進めていくことが最も大切であり、論点・争点を十分に論議し「決着の場」としての議会の在り方を会派などの枠にとらわれず議員一人一人が再確認し行動し広く市民に広報することが、信頼される議会(自治体)となるためには最も重要と感じた。